

京交山岳部報

【第1933回例会】★

下辻山 II 1,306m

日時 3月6日(土)
集合 七条大宮バス停南 AM6:00
コース R24-R168-旭橋-瀬戸ダム
-下辻山-往路下山
担当者 河村 清(内871)
(自宅581-5828)

【第1934回例会】★★★

スキー登山

越前 取立山

日時 3月6日(土)~7日(日)
集合 3月6日(土)PM3:00 九条車庫
コース 九条車庫-京都南IC-福井北IC
-谷峠(テント泊)-取立山-往路
下山
担当者 井戸 澄夫(内743)

【第1935回例会】★

府県境シリーズ

宝山 ・350m

東床尾山 I 839m

日時 3月13日(土)
集合 壬生AM7:00
担当者 岡田 茂久(内811)
備考 宝山は兵庫県境の夜久野高原に位置し、京都で唯一の火山といわれている。但馬の名峰東床尾山と組み合わせ、帰途は出石まわりとし、皿ソバを賞味する予定。
1/2.5万 直見, 出石

【第1936回例会】★★★

'93冬山へのステップ(1) 基礎技術

木曾御嶽 3,067m

日時 3月19日(金)~21日(日)
集合 3月18日(木)PM9:30
壬生集合
コース 壬生-京都東IC-中津川IC-木曾福島-八海山五合目駐車場-ゴンドラリフト三笠山-田ノ原-木曾御嶽-往路下山

担当者 大倉 寛治郎 (内2-3371)
(自宅642-4332)

備考 部員諸氏の力を借り、積雪期登山の
技術を取得できるように計画しまし
た。
冬山装備一式、スキー、テント泊
1 / 2.5万 御岳山

【第1937回例会】★

妙見山 IV 660 m

日時 3月20日(土)
集合 阪急河原町駅AM7:02 発急行に
乗車
コース 阪急河原町-阪急梅田-川西能勢口
-妙見口-黒川-妙見山-往路下山
担当者 山下 周道 (自宅611-1509)
備考 1 / 5万 広根

【第1938回例会】★★★

三峰山 I 1,235 m

日時 3月28日(日)
集合 壬生AM7:30 集合
コース 壬生-天理-R368-神末…三峰
山△1235…往路下山
担当者 大槻 雅弘 (内504)
備考 早春の一等三角点へ登ります。昨年
学能堂山へ登りましたが、その続き
の尾根に見えていた山です。

【第1939回例会】★

白六山 III 1,189 m
地藏岳 ・1,250 m

日時 3月27日(土)~28日(日)
集合 七条大宮バス停南AM6:00
コース R24-R168-宇井-白六山-
宇井-滝-小川隧道-上葛川うらし
ま(泊)-地藏岳-往路下山
担当者 伊藤 潤治 (自宅463-4936)

平成4年度京交山岳部総会
兼今月の集会

日時 3月12日(金) PM6:30
場所 ハウス竹田

企画運営委員会

日時 3月22日(月) PM6:30
場所 厚生会館 4F 大教室



丹後の峠にて

岡田茂久

昨年の晩秋、墓参のついでに尉ヶ畑峠に登ってみた。尉ヶ畑峠は兵庫県出石郡と京都府熊野郡の国境に聳る高竜寺山の東鞍部にあり、昔から熊野郡から出石郡の市場を通り、登尾峠を経て福知山への最短路として利用された京街道であった。近年には林道が尾根まで拓かれ、峠の真下をトンネルで抜ける道路が建設中で、立派な取り付け道路も完成し再び街道は生き返りつつある。しかし、旧峠路はもう廃れてしまい路跡には植林までされてもう歩く者は誰もいない。

国境の山波は、峠の少し東で磯砂山から延びてきた尾根と合って南下し江笠山に至る。尾根の合流点と磯砂山との鞍部に羽衣伝説の天女が水浴をしたという池がある。

私の祖母は出石の奥の口藤という村で生まれた。村は高竜寺山の南麓に広がっていて、祖母は二十四歳のとき籠でこの尉ヶ畑峠を越え、熊野郡佐濃村の祖父の家に嫁いできた。峠には当時古い桜の木があり、はらはらと白い花びらが峠路一面に散って「そら美しかったもんだ」と良く話していた。峠には一体の役の行者像が足を踏ん張って南をにらんでいる。祖母はこの峠の役の行者像が恐かったこと、峠の登り路にはエビネ蘭が群生し、黄色いじゅうたんの様だったこと、そして小学校の遠足には、羽衣伝説の天女が水浴をしたという美しい池まで出かけた話を聞かせてくれた。

今でも峠の役の行者像は林道脇に所在なげにたたずんでいるが、しかし、今はもう桜の古木も切られ、エビネ蘭はその片鱗もなく、天女が水浴をしたという美しい池も沼と化している。

尉ヶ畑峠からは北に女布権現山を望む。その麓が佐野城跡である。天正七年、織田信長軍は怒濤の如く全国を席卷していった。丹後の守護一色義道も必死の抵抗を試みたが、衆寡敵せず宮津城で討ち死する。ここ一色方の佐野城も細川（長岡）忠興軍に囲まれ、一昼夜の攻防の後に城主佐野備前守は炎上する城とともに果てたという。今、峠からみる佐野城跡は松籟のみが愁々と哭くのみ。

女布権現山の西麓の先をたどると函石浜である。函石浜の東には古代の大地震の折に一夜で出来た大きな砂山があり、丹後の外称の起源といわれる丹池がある。今も満々と青緑色の水をたたえた大きな池で、砂山は一面桃畑とチューリップ畑でまさに桃源郷である。砂山の東麓が京都府唯一の温泉であった木津温泉で、木津は橋が語源である。千八百年ばかり昔のこと、時の垂仁天皇は田道間守をして「不老不死の霊果、非時香菓」を求めてに常代国に遣わされた。田道間守は十年の後、やっとこの「非時香菓」を手にいれ函石浜に上陸する。このとき持ち帰った「非時香菓」は「田道間花」と呼ばれるようになり、これが「たちばな一橋」となり訓読みの「木津」となり地名になったと伝える。木津は私が子供の頃育った村であり、学んだ中学校は橋「たちばな」

中学校という。

木津にもかって木津城があり、織田軍侵攻の折、城主赤尾但馬守の家臣の松本七郎正繁は細川忠興に降り、後にこの地方の政務を任される。私の悪友坊主の寺は松本家代々の菩提寺である。

峠にたたずむと茜色から暗藤色に暮れなずむ山陰路の空の下、函石浜の先には日本海が鉛色にうねり、遠く磯の岬が藍色の影を落としている。磯は薄倅の白拍子静御前の故郷でもある。

因に、羽衣の天女、細川ガラシャ夫人、静御前、小野小町、和泉式部、安寿、竜宮の乙姫を丹後七姫と言う。丹後は伝説と歴史の宝庫、山行の折々これらの遺跡伝承を訪ねるのも一興である。

【第1918回例会】

ゴジダニ・奥谷点と見行山

伊藤潤治

ゴジダニは、昨師走12日第1918回例会で登頂する筈であったが麓につくと、前夜来の新雪が融け落ち、まるで滝の有様。

これは三十六計、逃げるに如かず、と残して、事始めの翌13日、天狗森山・1338m（中津川）を登頂した。その折、新春三日の見行山を約束してしまった。

見行山も1552名山であり、ことしは、高橋新吉の詩、「空間には外も内も有り得ない、終りも始めも時間にはない」にならぬ、ゴジダニと見行山を、元旦登祝とすることにした。

ゴジダニは、美濃国揖斐・不破の二郡に跨がり、標高七百二十六メートル。地形図、長浜（岐阜12号）。

私たちの登路は、名神関ヶ原ICからR21号に出て、東行約1.5キロで、新設道路へ左折、やがて「菩提寺〇〇」・「竹中半兵衛の墓」標を左折、谷集落には岩田酒店あり、明神湖を右廻りで、ホンザカに入り約1キロ地点に駐車、からであった。

その日の伊吹山は雪面も少なく、目指してきた山も黒く静まり返っていたのは、師走に憂目をみた身には、うれしくてならなかった。

京都を出て約2時間、わがもの顔でできみると、先着車があり、ドラムの練習をする青年が一人いた。こちら三名は、青年のつつましかさかさに感心したり、あきれたりであったが、あちらさんは、さぞかし侵略者を迎えたほどの驚きではなかったか。

青年は車内にあって、私たちの出発を待ってくれたがどうも新春早々、とんだ鉢合せをしたものだ。青年に行ってきますとあいさつをして歩きだす。

林道は露岩とでこぼこが多く、雑木や若木が伐られた作業跡の生々しさ、という急転に、目を見張らすものがあつた。

ゴジダニを見上げる谷間に次いで、すぐの分岐を、よく踏まれてある右に入った、僅かで踏み

付けた道は細まり、美林の右斜面にかかっていた。

その折、地形図を確認したと思うが、怪しむことなく踏跡を植林尾根へとたどった。

どうも、いくら宿酔や睡眠不足であっても、なぜ、その折分岐に戻らなかったのか、分らない。

植林の上限で作業に出会う。その頃、ドラムが聞えてきた。この作業道の取付は、駐車点付近のようだ。作業道はトラバースするが、深い谷を隔てたゴジダニを見晴らした、あと、崖崩れした谷をまたぎ、尾根をまいて、ワサビの自生地を踏んで谷に下っていた。

対岸の美事な植林を上ると、これが破線路か、ホンザカかと、眼を疑いたい立派な道があった。奥地の住人たちが、さまざまな感概を胸に、往来していた生活に欠かせない大切な通路であったことだろう。人なつっこい話声がもれてくるような、深く掘れ込んだ道に落葉がつもっていた。

急坂を登った揖斐と不破の郡界は、なごやかな情景で、一息つけるよき憩場である。

西に向う郡界稜は揖斐側植林、踏跡は不破側自然林にするされ、追々、きつい登りになっていた。

獣道もたどったようだが、やがて笹が現われ雪を見るようになる。けれど雪の点在が笹を押えていたので楽しかった。

ゴジダニⅢ 7 2 6 mは、疎林と笹の中で展望はなかった。しかし、ここが「1500山のしおり」の長浜3、であると思うと、どこからか喜びの歌が聞えてくる。そんな感動がわいた。感動といえば、この美しい標石は、笹からも雪からも抜け出していたのに、登頂の瞬間、眼に入らなかった、戸惑うたのは、位置のせいかな。

朝は時雨空であったが、精進のよい者に天は、気前よく青空を下さった。祝福された喜びで、コース沿いにある後谷点Ⅳ 6 1 0 mにも登った。

登頂すると、待っていたような伊吹山北尾根の眺望があり、大喜びができた頂上であった。この山もだがゴジダニは、濁音つづりの山名、低い標高のためか、足が向かなかったのであるが、登ってみて驚いた。

この山は、あんまり登ってほしゅうない、そっと秘めておきたい、そんな大それた思いを抱いて下山したからである。

かくてゴジダニを見行山の前座としたが、あと大垣での宿泊が必要であり、これをいろは荘に相談して、10日まで正月休みだから、“いらっしやい”と快諾をもらっていた。

いまさらながら、いろは荘はなき親友氏巴君方であるから、相談といっても強要であったかも知れない。

氏巴君との交友には、干支が同じであるという同志意識が強かった。ところがこの日の私たちの干支が、氏巴君と同じ丑歳であった。これを奇遇がっていると、私も親爺さんと同じ丑歳ですので、よろしくと名乗出られたので、その夜は一段と盛り上った。

それは、ともかく翌3日は、朝食抜きで駆けつけ、遅刻10分。ようやったもんだ。

大垣をあとに、金華山、関市、美濃加茂市、飛騨川、あれはっと、胸のときめく箱岩山の発見など、登山口となる白川町赤河峠まで、国道・市町村道の町や集落を物珍らしく眺めながら、先

導してもらって行った。

リーダーは、自称鬼と仏の名だたる両高木さん、メンバーは、姫が3名、稚児2名に、おっさん5人。しめて12名の一行さん。

恵那市の境界から登り始め、美林を抜けると、快晴がまぶしかった。そして辺りの草木には、霜がきびしく凍りついていた。

道がよくなって、森閑としてくると、見渡す林床には、水苔が充満して、その緑の鮮やかに感嘆、その緑の美しい光景は延々とあって、これだけでも充分と、実に楽しかった。

右折してからも、水苔地帯は続いていた。左寄りにまいて、やがて落葉の詰まった澗谷に入り、裸木の並ぶすがすがしい八百津と接する、西北稜に上った。

その疎林から僅かで、見行山Ⅱ905m(付知)に立つことができた。そこに白い御嶽山、中央アルプスが輝やっていたことは、思いがけなかったので二重の感動であった。

ちなみに、この20万、飯田、36を。岩坪吟子さんの「51～100山のしおり」を繙いて拝見すると「1979年1月28日登頂。メンバー、今西・Y・オジメ・四手井・西川・田中・五郎。メモに、真空な空、やがてオレンジ色に変る。ものすごい夕焼け、」などが記されており。今西先生のご満悦ぶりがしのばれて、なつかしい。

下山は、小祠を祀っている八百津嶺に酩酊行、再登の上、恵那・八百津界・恵那・白川界を伝い、めでたく赤河峠に戻った。

ここで私たちは、往路をお帰りになる大垣さんたちにお礼をのべてお別れし、中央道恵那ICから名神京都東ICの家路を帰った。

1993年1月2～3日

参加者 三橋 勉、伊藤潤治、他2名

【第1921回例会】

有馬 高丸山 3等 508m

山下周道

久しぶりの温泉付の山行となって時のくるのが待ちどおしい気持であったが今回は何より伊藤氏よりお誘いの近畿山行の前会長橋本峯雄氏を迎えての山行でもあった。

神戸電鉄の五社駅で下車し駅前を北進、有野台住宅地まで行き、目の前にある高丸山の北側にある初めての谷筋を南方に向かって登る事にした。しかしこの道は橋本氏の先導があつてのことである。

すっかり落葉したこの登りは大変美しく感じ又なんだか心も静まり、こんな素晴らしい谷筋もあつたのかと思ひながら登って行った。

約20分で尾根筋へ出られそこから早くも六甲の山々が見渡せる場所へと出られた。

山頂まではこの尾根筋を東へ行くのであるが途中痩せ地の急な上り等がところどころあったりしてなかなか変化のある尾根通しであった。

やがて山頂に着き先ずは万歳三唱かなり広い眺めのよいこの山頂で中食となり三角点に供えたビールで乾杯となったがそれからが大変ご自慢の山話しに花が咲き誇り時の経つのも忘れる程であった。

やがて有馬温泉での2次会も有るのでやっと立つ気になり尾根筋を東進しての下山となった。

途中北から来る径に出合った所で南の方へと下り、やがて街道に出られた。

無事下山した我々はこの街道を日本最古の温泉有馬の町へと下って行った。

コース

12月20日 阪急四条 7:02 - 梅田 8:50 - 新開地 8:49 - 五社 9:25 …高丸山頂 11:10 …有馬温泉 15:30 - 谷上 16:09 - J R 神戸 16:24 - J R 京都 17:34

参加者

伊藤潤治, 三橋 勉, 河村 清, 山下周道, 他 2 名

【第1923回例会】

チウドウヤマ

中道山（城山）I 271mと

タカミクラヤマ

高御位山Ⅲ 304m

中道山（城山）

山下周道

1月10日小雨の降る天候でありましたがこの両山は傘があれば登れるとの事で行って来ました。城郭事典によると中道山（城山）は加古川から加西へ通る北條街道沿いの細工所から東約1.5kmの距離にあり山頂から加古川市、明石市、三柿さらに淡路島を眺望できる、地元の安楽寺、寺記（志方町志）などによると築城は赤松氏則とされているがまた別に「播磨古城記」では孝橋新五郎繁広築え」としている様に築城に関しては不明なところが多い又廃城の時期は天正年間（1573-92）といわれ（「播州城記」「古城運紀」）これについては地元で秀吉によって落城した伝承を伝えている。と記してありました。

城域300m×180mの広い山頂では先ず一等三角点にビールを供へ万歳三唱、乾杯等の行事をすませたが、晴天であればさぞ素晴らしい場所であったのと思いながらこの古城跡を後にしたが見方によればあたり一面ガスに包まれたこの城跡もすてがたいものと感じながら山を下りました。

高御位山

日本山嶽志によれば播磨国印南郡ノ北方ニアリ，西志方村大字成井ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス，標高千四尺

(名勝) 全山は皆岩石より成り，坂路崎嶇として曲折定りなく，其頂きに小祠あり，高座の神を祭り，維新前までは毎歳九月を以て祭典を行ひ神輿－基本社を出て生石村の石ノ寶殿へ渡御セリと云ふ，高座祠の在る處は，太古神座の遺跡なりと言え其の近傍巨岩落々として起伏す，就中一ノ門，二ノ門，御丸等は最も巨大なるものなり。と記してあり。

又ふる里の山名復活，松本文雄 著には

高御位山は播磨灘の航行上重要な目印となったので，漁業者は山の神様が喜ばれたと伝えられる「おこぜ」を山頂の祠へ供える風習を大正時代まで続けていました。とあり

日本では昔より山は一番信仰の対象であったと思いますが，この高御位山ほど感じた事はありません，それは山へ入る第一歩の清く敷きつめられた石段を登る時から思いました。又山頂では起伏の激しい巨大な岩に驚きました。それと三角点の中々見当らず危く見失うところでしたが小祠の桂の脇にうずもれ頭の面だけが見えていた三角点を見て「おい頑張れよ」と思わず叫びました。そんな事も有ってこの山頂の巨岩とも別れ清浄な雰囲気にも包まれながら無事志方町成井の街に下山しました。

コース

J R 京都 6:45 - 山陽本線宝殿 8:46 - 志方町岡 9:20 … 中道山 9:50 ~ 10:25 … 志方町岡 10:45 … 昼食 11:00 ~ 12:00 … 志方町成井 13:20 … 高御位山 14:20 ~ 14:35 … 志方町成井 15:15 息タクシー 16:30 - J R 宝殿 16:48 ~ 17:02 - 京都駅 19:04

参加者

伊藤潤治，山下周道 他 1 名

【第1927回例会】

93. 野沢温泉スキー

大 倉 寛治郎

今回で4回目を迎えたスキーツアーは，天候の意地悪で出発の2月1日は雪が舞う日であった。天気予報によれば「冬型気圧配置が強まるため，1日は寒い冬空に戻り，北部で雪，南部でも一時雪が降ってしぐれそう。2日はゆっくり回復に向かうが，北部ではまだ雪が続く見込み。」。また注意報によれば「京都府南部=風雪（冬型気圧配置のため北西の風が強く，最大風速は10~15メートルで突風を伴う。断続的に雪となり，見通しも悪くなる。2日まで続く）◇滋賀県全域=大

雪，風雪（最大風速12～15メートルで突風を伴う。降雪量は北部で10～20センチ，所により30～50センチ，南部は所により10～20センチ，2日夜にはおさまる）京都地方気象台。」。

午後9時京都をマイクロバスで13名が出発，山科からバイパスを通りR161号へ出る。

近江今津へ雪もだんだん激しくなり中にはチェーンを巻く車両もあり車の流れも悪くなる。比良駅手前1kmでは完全に流れも止まり雪の降りしきる中チェーンを巻く，対向車を止め事情を聞くと「敦賀からここまで6時間かかった。これから先相当に渋滞して敦賀には朝に着けば良いほうだ」と。そこで時間の経過もありUターン琵琶湖大橋を渡り新しく出来た湖岸道路を長浜から，R8号へ木之本ICから北陸自動車道へ。

ここでもタイヤチェーン装着のチェックを受ける，時間も約2時間遅れ高速に入ってもチェーンを取りつけているため速度も50kmで福井北付近では左のタイヤチェーンが切れる。道路には雪が少しはあるが無理をしなければ行けそうなので路肩に止めチェーンを外す。やっとつかえた物がとれスッカリしてふだん通り走行で午前8時名立谷浜SAで休憩，民宿へ遅れる旨連絡を入れる。上越ICで高速をでるR18号からR292号へここで再びチェーン「切れたチェーンを修理」を取りつける。昼前には野沢温泉マルトミに着くことができたが京都より長い道のりで15時間掛った。昼食後女性はゲレンデ，男性は長旅の疲れを取るため温泉へ。二日目は各人思い思いにシュプールをのこす，昼食は無料休憩所ですき焼きと肉うどん，の材料を津田さんに上まで運んでいただきありがたくいただく。また訪れる度にスキー場の施設が新しくなる。

三日目は，きしなのこともあり昼過ぎには出発する。途中休憩を取りながら北陸自動車道，名神京都東ICと事故もなく予定通り帰着することができた。

尚，この山行に際し差し入れ等いただきありがとうございました。

参加者氏名

吉田 武，津田 実，大倉寛治郎F3，他7名

コースタイム

2月1日 河原町今出川 21時 木屋町御池 21時10分

日の岡 21時30分

2月2日 野沢温泉マルトミ 11時50分

2月3日 野沢温泉スキー場

2月4日 野沢温泉マルトミ 12時10分 京都高野 19時50分

【個人山行】

三河・遠江・美濃の山

三河・遠江

伊藤潤治

JAC岐阜支部のブキさんと中野さんと会友でモコちゃんと私のメンバーで、1月13日から15日まで二泊三日の山旅を行った。

13日は、先ず「1,500山のしおり」20万豊橋 25。無名(下山中継所)Ⅲ946m, 阿蔵点に立つ。

澄んだ青空 はるか北に向いて白き峰あり……………けれどもここでは、御嶽、乗鞍のこと。

次いで、笹頭(ささのうず)山Ⅲ760m(田口)。登達した山頂は、植林帯を裾にしたすがすがしき疎林、目をひいたのは、田口高校の「われらの山 50」標と享和ニ戌十一月を刻む小石祠。山名は笹を栽培していた名残の由。駐車点の真向に、遮るものなく立つ鞍掛山の荒々しさは、熱い思いをつのらせた。その夜は、清学山荘(東栄町三ツ瀬)泊り。

14日、古戸(ふっと)山Ⅲ760m(田口)、頂きは、僅かに南を欠いて明るいが荘厳なほどの森林。「われらの山 50」の外に山頂が多かった。途上に現れた御殿山が、あまりの秀麗。これもいずれ、登らんならんだろう。

小岩岳Ⅲ985m(田口)の番になった時は、雨が降っていたが、合羽を着ればいいさで、片付けた。よい尾根道に美しい小笹と好ましい木立群、山名の岩は見当らななかったが気分のよい山であった。

神野山Ⅱ938m(田口)は、コース半ばの・909m峰に、ケルンが見事に積んであった。この頂上は、今西先生の20万豊橋 22であり、ロングアゴを歌い、ご冥福を祈った。△は木立の中だが、西北が開けていたので行くと、向うはガスが充満した伐採空間、目にできたのは、山霜に煙ぶっていたブナの稜線くらい。望月峠もよかったが、雨の中、熊野神社拝殿が拝借できたことを、この日は特に感謝しておきたい。その夜は若松屋(鳳来町大野)泊り。

15日は雨で明けたが、鷹ノ巣山Ⅲ609m(三河大野)を目指した。まごついて、荻野登さんにお会いできる幸運があって、好調裡に今西先生の20万豊橋 30の△に到達。ここの最高点登頂はモコちゃんのお手柄、あの心意気は忘れられん。ちなみに日本山嶽志収録の山でもある。

次いでこの山も、今西先生20万豊橋 31、無名Ⅲ768m佐賀野点(三河大野)で、やはり順調に運び、深々と茂って暗い中に、真白い標石のみの頂上は、掉尾を飾るよき登頂であった。ブキさんの判断よろしく、めでたく念願成就。その喜びで、締めくくりのロングアゴを歌い、祝盃もいただけたのである。

あと東名豊川ICから名神大津IC経由、JR膳所駅前で解散。中野さんの外は、そのままアヤハレークサイドホテルに行き、十二支会に参加、翌16日は、鶏冠山Ⅲ491m(水口)で、ある祝福をうけてうれしい一日であった。

美 濃

このところ餓鬼に墮したか。“伊藤さん、捨難山に登らんかね”，そういう仏の高木さんにすぐ釣られていく。去る1月24日（日），折しも里の暗い雨は，入山すると雪であって，木々は枝々に清浄無垢の花を咲かせ，積雪の林床には，かわいいいちいちゃんくま笹。捨難山Ⅲ 983m（付知）は，極楽浄土もかくやと感動させた。

その高木さんたちと別れて，寒陽気山Ⅵ 1,108m（付知）を登った。年甲斐もないこの貧欲ぶりは，やはりこの寒陽気が「1500山のしおり」の20万飯田 43. だからの焦りであろう。それと標高の1,108mは，1993年初登であることに，たわいないようだが心が躍ったためである。この至福は井上欽司さん，赤井文明さんという，よき脇士があつてこそである。

例 会 報 告

例会No.	目的地	月	天候	担当者	参加者	記 事
1918	初冬の伊吹山を望む 五字山	1月2日 ～3日		河村 清	伊藤 潤治 三橋 勉 他2名	日程変更 (別稿詳報)
1921	高丸山	12月20日		山下 周道	伊藤 潤治 河村 清 三橋 勉 他2名	(別稿詳報)
1923	中道山(城山) と高御倉山	1月10日		山下 周道	伊藤 潤治 他1名	(別稿詳報)
1926	積雪期遭難救助 訓練 頭巾山	1月30日 ～31日		吉田 武	坂井 久光 岡田 茂久 大倉寛治郎 方山 宗子 山岡 昭弘 他3名	(次号報告)
1927	野沢温泉スキー	2月1日 ～4日		大倉寛治郎	吉田 武 津田 実 他10名	(別稿詳報)
1929	明神	2月7日		河村 清		中止しました。

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
御岳スキー	平成4年 12月29日 ～31日		大槻 雅弘 F1 三橋 勉 F1 岡田 茂久 渡辺 智生 方山 宗子	} 12/29～31 参加 } 12/29～30 参加
三河・遠江の山	1月13日 ～15日		伊藤 潤治 他3名	(別稿詳報)
京都府山岳連盟 15回記念 野沢温泉スキー	1月22日 ～25日		大槻 雅弘 今井勇一郎 方山 宗子	
美濃の山	1月24日		伊藤 潤治 他2名	(別稿詳報)
初歩冬山訓練2 花背峠周辺	2月7日	曇	岡田 茂久 鷺見 敏一 和田 良一 吉田 武 山岡 昭弘 馬淵 拓己	2月に予定されている積雪期指導員検 定会に備えて、雪を求めて北山へ行きま した。道中車内では、アイゼン・ピッケ ル、そして、やっと見つけたゲレンデで は、雪上歩行、滑落停止、連続登攀、隔 時登攀と最後の仕上げを行いました。

雑 報

▲▲▲ 2月の集会

日 時 2月9日(火) PM6:00～8:00

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 (OB) 伊藤, 河村, 津田, 坂井, 山下, 奥村,

(本局) 岡田, 大槻, 和田, 三橋, 井戸, 山岡,

以上12名

内 容 例会報告ほか

▲▲▲ 1月の企画運営委員会

日 時 1月20日(水) PM6:30~9:00

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 岡田, 大槻, 三橋, 吉田, 大倉, 井戸, 津田, 以上7名

▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

1月号 比良山岳, 一等三角点, 趣味の登山,

2月号 京都山岳, 近畿山行, 趣味の登山, 木雞, 山友, 青嶺, 北山,

▲▲▲ 退 部 (平成5年2月10日付)

山下 稚淳 (九条)

野田 武司 (九条)

▲▲▲ その他

昨年の10月, 京都山岳会長老の松浦勇次氏が, 大峰山奥駆け笠捨山近辺で行方不明となられ, その捜索に当山岳部も協力を致しましたが, その謝礼として, 京都山岳会よりナイロン \varnothing 10.5mm \times 46mザイルを寄贈頂きました。

捜索に協力された方々は大変御苦勞様でしたが, 残念ながら今だに松浦勇次氏の行方は不明のままです。雪解けを待って捜索が再開されることになってはいますが, 大峰山奥駆け笠捨山近辺に山行計画がある方は, なにか手がかりが発見できるかもしれません。注意方よろしく。(捜索のためだけの山行は当部としては例会としては取り組みません。)

▲▲▲ お知らせ

- ・日山協山岳遭難共済平成5年度第一次募集を下記のとおり行っています。

費 用 7,920円 (1年間)

申込先 井戸 澄夫 (内743)

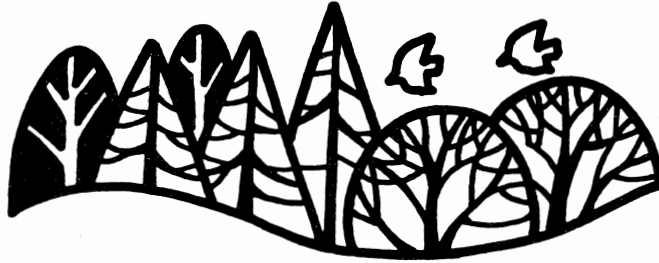
切 平成5年3月12日(金)

- ・平成4年度京交山岳部総会兼3月集会を下記のとおり行います。部員の皆様, ふるってご参加下さい。

日 時 平成5年3月12日(金) PM6:30~

場 所 ハウス竹田

会 費 1,000円(当日徴収します)



THE LOG CABIN CO.
 H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

登山道具店 **ログケビン**
 ☎604 京都市中京区御幸町通娯楽師下ル
 FAX:(075)221-8069 電(075)221-7569
 営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か
 定休日:月曜日と火曜日 FAXでお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
 厚生会指定
サンコークラフト
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
 TEL.(075)771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
 TEL 801-5331 (代)
 西大路営業所
 下京区西大路七条下ル
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!

ビッグホリイケ
 営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US放出品
ポータブルソフト用品

MOUNTAIN

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
（株）スポーツ コニシ

山 山 山 山 山 …… ⑨

前号の正解は次の通りです。

- ① カール・ブッセ原作上田敏訳「海潮音」
- ② 陶淵明「飲酒の辞」
- ③ 夏目漱石「草枕」
- ④ 石川啄木「一握の砂」
- ⑤ 清少納言「枕草子」
- ⑥ 松尾芭蕉「甲子吟行」
- ⑦ 島崎藤村「夜明け前」

制作 (株) 北斗プリント社
〇七五―七九一―一六二二五

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

 小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区^{あけず}不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 代

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成5年3月1日

京都市中京区壬生坊城町 4 8

京都市交通局内
京交山岳部